

## 令和5年度自己評価書

令和6年3月21日

真庭市立湯原こども園

園長 川崎美名子 印

### 1. 湯原こども園の教育保育目標

○人としての基礎が作られる重要な時期である乳幼児が、健康・安全で情緒の安定した生活ができるように、保護者、家庭、地域と連携を図り協力し合うことにより、心身ともに健やかに育つ保育・教育を目指す。

「人や物、自然とのつながりの中で、心身ともにたくましく心豊かに育つ  
子どもの育成」

#### 今年度研究テーマ

○よく見て、よく聞いて、よく考えて行動する子どもをめざして  
～心も体も健康でたくましく、主体的に活動する子どもをめざして～

### 2. 本年度の重点目標

#### ◎友だちとともに育ち合う子どもに

- ・人や物、自然と関わりながら、友だちと一緒にいろいろな体験をする。
- ・職員が共通理解を深め、園児がのびのびと生活できるように安心安全な環境作りを行う。

#### ○のびのびと元気に遊ぶ子どもに

- ・年齢や発達に応じた生活習慣の自立
- ・友だちと一緒に楽しく遊ぶ子どもの育成（健康な心とからだ）

#### ○自分で考えて行動する子どもに

- ・興味や関心をもったことに主体的に取り組む
- ・園生活において遊びや活動に見通しをもって取り組む。
- ・目的をもって試行錯誤しながら最後までやり遂げる。
- ・自分の考えを相手に伝えたり、友だちや保育者の話を聞いたりする。

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	教育課程・教育目標を遊びや生活に位置づけ、振り返りや見直しを行いながら発達段階や興味関心を捉えた計画の立案、実践が概ね達成できた。	3
行事	保護者アンケートからも行事の種類や回数は適切であった。活動ごとに保育の様子が伝わるように工夫した。	3
組織・運営	組織内容を明確にすることにより、職員間で共通理解し、各々が立場を理解し運営に関わった。	3
学級経営	研究テーマに沿った保育実践に努めた。また、子ども理解に努め、一人一人の子どもに応じたかかわりや支援を行った。	4
特別支援教育	支援の必要な家庭については各種専門機関と連携を取り、個々の状態に応じた対応を行っている。	3
安全管理・保健指導	園舎内外の安全管理を行い、事故や大きな怪我もなく、安全教育に関しては目標を達成することができた。また、計画的に安全教育を行った。	3
研修（資質向上）	園内研修計画に基づき子ども達の望ましい育ちにつながる研修ができた。特に、公開保育に取り組むことで、資質向上に繋がった。	4
情報提供・保護者・地域との連携	保護者アンケートからも各種たより、連絡ノート、掲示板、ホワイトボード等を使って分かりやすく園の様子を伝えることが出来ていることがわかった。	3
小学校との接続・連携	子どもの育ちに関する情報共有や職員間の交流を行った。交流活動回数・時期については計画的に、早期打ち合わせが必要である。	3
子育て支援	保健師等、専門機関と連携し、保護者からの連絡に対して素早く適切な対応をした。	3

食育の推進（給食）	給食を楽しみにしている子どもが多い。食べ物への興味や関心がより高まるように栽培・収穫・クッキングなどの食育活動を増やして行きたい。	3
食事の提供（調理）	衛生管理・安全管理を徹底し、各種マニュアルに沿って調理を行い、安心安全な給食を提供した。	4

#### 4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
よく見て、よく聞いて、よく考えて行動する子どもの育成	保育者自身が意識し、取り組むことによって子ども達の変容が見られた。	4
楽しく保育実践する	保育者自身が保育（活動）を楽しみ、概ね達成された。普段から子どもの姿についてしっかり語り合い、全職員で全園児の子ども理解に努めた。また、相談しやすい職場と感じている職員が多く、異年齢児交流では職員同士で保育観についても伝え合い、交流計画・実践方法など模索しながら、みんなで考えたという達成感も強い。	3

#### 5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

「よく見て、よく聞いて、よく考えて行動する子どもの育成」を重点目標としている。研究テーマに沿って職員間で話し合いを度々行い、「人・物・自然」を職員自身が意識して計画することにより、子ども達の感性が豊かになり、主体的な発想が生まれ、友だちと一緒に試行錯誤しながら行動する姿が多く見られたようになったと感じる職員が多い。また、保育実践の視点からも、年度初め、保育・教育目標、保育方針について全職員で話し合い、共通理解することにより、重点目標を常に意識するという、保育者自身の意識改革にも繋がったと考える。

環境については、昨年度の課題であった園外活動についても職員間で話し合いを行い、安全に活動できる場所選びや園外の方々のお借りし、子ども達が楽しく体験できる場を作り出すことができた。子ども達も保育者自身も「楽しい」と実感できたように思う。

保護者アンケートでは、家庭で、園での遊びや経験したことを伝える事が増え、園生活全体を通して子ども達が楽しく過ごしていると感じている保護者が大半であった。また、ホワイトボードや連絡帳による情報提供については高評価をいただいた。そのことから、子ども・保護者の思いに寄り添いながら、信頼関係を築くよう努めたことが、安心感に繋がったと考える。

## 6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

・行事についての計画は、アンケート等による保護者の意見も取り入れながら計画した。保護者からの感想・意見では満足されている家庭が多かった。行事内容・日程等、変更・改善する場合には、今後も保護者と連携を取りながら意見や要望に添えるように配慮していきたい。

・散歩や園外活動を多くし、恵まれた自然環境を生かし、子ども達の感性や5感を磨くことができるように、身近な自然に触れる機会を多く取り入れた保育実践を行うように計画したことにより、子ども達がいきいきと活動する姿が見られた。引き続き、子ども達が「ワクワク・ドキドキ」胸躍らせる体験活動ができるよう安心安全な環境を構成し計画していきたい。

・園やクラスの様子などお便りやホワイトボードなど、簡潔で短い文書・内容で伝えるようにした事により、分かりやすいと感じる保護者が多かった。また、園行事については写真を使うことで、保護者は、「掲示物を子どもと一緒に見る」「子どもから行事の様子を聞く」「子どもに保護者の思い・感想を伝える」というコミュニケーションツールとなったように感じる。これからも活動の様子を伝える工夫をしたり、HPも活用したりしながら、いろいろな方法で保育の様子や保育方針をより分かりやすく発信していきたい。

・今後も地域の方と交流や故郷の良さ・温かさが感じられるような体験活動ができるように計画し、保育実践していきたい。